第78回秦野たばこ祭俳句大会第二部　当季雑詠

賞	総得点	得点	受賞句	氏名
第一位 たばこ祭実行委員会賞	16	12	反骨の鎌を研ぎおりいぼむしり	長谷川昭放
		4	いなびかり中古マンション一億円	
第二位 市長賞	13	7	廃校の壁に寄せ書鳥渡る	清水呑舟
		6	まづ水を褒めて秦野の新豆腐	
第三位 市議会議長賞	12	8	心まだ昭和のままや秋刀魚焼く	西岡青波
		4	抱きかかへなだめなだめて萩括る	
第四位 教育長賞	10	7	新涼やするりと剥ける茹で玉子	桜庭義昭
		3	難聴にたばこ祭りも遠くなる	
第五位 県俳句連盟会長賞	9	7	新涼や筆滑らかに走り出す	鈴木幸子
		2	故郷は大き懐天高し	
第六位	9	7	百の家の百のドラマや秋灯	岡本保
		2	激動の昭和生き抜き新走り	
第七位	9	7	葛の葉の揺れて顔出す道祖神	横溝彰
		2	鉄道員のポスター破れ駅は秋	
第八位	8	6	秋を舞う棒高飛びへ五万の目	石井千代子
		2	米騒動忘れてしまう黄金の田	
第九位	8	6	玄関の隅から秋暑掃き出しぬ	田畑ヒロ子
		2	障子貼り開ければ母が居るような	
第十位	7	4	母の畳む物に皺なきこぼれ萩	大山道子
		3	廃校を道の駅とや鳥渡る	
第十一位	7	5	一礼のわづかに永し勝角力	横塚昌平
		2	荒れ地とふここが故郷虫すだく	
第十二位	7	5	機械化の中ぽつねんと残る稲架	川島浩平
		2	風に乗り風を躱せり赤とんぼ	
第十三位	7	4	阿夫利嶺の紅葉促す大鳥居	杉山美代子
		3	移り行く棚田の色を鳥渡る	
第十四位	6	5	父の名で母が送りぬ栗光る	石黒和風
		1	父母ねむる里のなつかし秋祭	
第十五位	6	3	爽やかや呼ばれておじぎするインコ	沼宮内薫
		3	なぜなぜに止まぬ二歳や虫しぐれ	
第十六位	5	4	カラオケは小指を立てて生身魂	小野菊土
		1	タイムカプセル土から出でし曼殊沙華	
第十七位	5	3	天高しリハビリ杖の弾む音	川島健作
		2	秋桜海一望の姉の墓	
第十八位	4	3	木の実降るひとり立ちへと飛ぶ如く	外山遊児
		1	畦道を花道として彼岸花	
第十九位	4	4	新涼や昨夜の煩ひ溶かしゆく	百武尚美
		0	新蕎麦の熱きそば湯をすすりたり	
第二十位	4	2	天災も人災も超え豊の秋	柳生明子
		2	天高く娘十八化学式	